

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	教授 後 藤 敏 文	1 学期	火	5
◆ 講義題目	リグヴェーダ選				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献『リグヴェーダ』の研究。今学期は引き続きⅣ巻を取り上げる。Geldner、Grassmann、Mayrhofer、AiG はじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	毎回の授業時に示される能力による。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	教授 後 藤 敏 文	2 学期	火	5
◆ 講義題目	リグヴェーダ選				
◆ 到達目標	リグヴェーダの講読を通じて、文献学、言語学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。				
◆ 授業内容・目的・方法	インド最古の文献『リグヴェーダ』の研究。第Ⅶ巻を取り上げ、比較的速く読む訓練を心懸ける。Geldner、Grassmann、Mayrhofer、AiG はじめ、基本文献、二次文献を活用できるよう努めること。				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と学習成果とによる。				
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。基礎文献は自明であるが、さらに必要な研究文献にはその都度言及する。				
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	准教授	吉 水 清 孝	1 学期	火	3
◆ 講義題目	ヒンドゥー法典研究					
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>バラモンが著したヒンドゥー法典は、生まれによって人間を階級分けして、階級ごとに職業選択や結婚相手の制約、法的地位における格差を定めた。今学期は、ヒンドゥー法に対するアンチテーゼの書としてVajrasūciを読み、仏教が、ヒンドゥー法に顕著なバラモン優位の価値観に対してどのように異議を唱えたかを考察する。</p>					
◇ 成績評価の方法	授業での貢献度 [100%]					
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。					
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	准教授	吉 水 清 孝	2 学期	火	3
◆ 講義題目	ミーマーンサー学派のマントラ論					
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>バラモンの諸学派のうち最もヴェーダの伝統を重んじたミーマーンサー学派では、ヴェーダ文の解釈を通じて、言語の機能についての考察を深めた。今学期は、『ミーマーンサー・スートラ』第2巻第1章へのシャバラスヴァーミン註の一部を読み、祭式の最中に唱えるマントラの解釈から、文の意味理解過程を説明する基本的学説がどのように形成されたかを考察する。</p>					
◇ 成績評価の方法	授業での貢献度 [100%]					
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。					
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 III	2	非常勤講師 永ノ尾 信 悟	集中 (1)		
◆ 講義題目	ヒンドゥー教儀礼研究				
◆ 到達目標	厭世的な世界観を背景として、解脱を求めるさまざまな営みを中心にインドの思想は語られてきた。この世の生の苦しみに対処するいまひとつ異なる流れがインドにあった。それが儀礼の流れである。紀元前後のころから多分記録されたと考えるポスト・ヴェーダ期の儀礼の変遷を中心に、この世のしあわせを求める人々の営みの実際を紹介し、インドの文化史の別な一面についての知識を得ることを目標とする。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ポスト・ヴェーダ期のヒンドゥー儀礼の伝統がヴェーダ期の祭式儀礼の体系と根本的に異なることを理解するために、まずヴェーダ期の祭式儀礼を1時間概観する。ついで、朝夕の勤行を例に、ヴェーダ期とポスト・ヴェーダ期の儀礼の変遷をみる。ポスト・ヴェーダ期の儀礼要素として重要なプージャーと護摩の形成をたどり、体系としてヒンドゥー儀礼を構成する、年中儀礼と聖地巡礼のシステムの展開を考える。ヒンドゥー儀礼の顕著な例を数例紹介し、最後にプシュヤの星宿に王が行う沐浴儀礼 (puṣyasnāna) の Atharvavedaparīṣiṣṭa, Bṛhatsamhitā, Devīpurāṇa の当該箇所を講読することで、ヒンドゥー儀礼の変容の実際を理解してもらう。</p>				
◇ 成績評価の方法	サンスクリット文法の既習者は授業での貢献度100%、未修者は出席50%レポート50%				
◇ 教科書・参考書	必要な資料は時間毎に配布する。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	教授 後 藤 敏 文	1 学期	月	4
◆ 講義題目	サンスクリット文学選				
◆ 到達目標	サンスクリット文学に関する文献学的・言語的訓練を行う。思想史的背景への理解にも努める。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>バルトリハリに帰せられる三百詩選中「離欲百詩」を題材とする。Kosambi の批判版に基づき、第148詩から読む。毎回出席者全員に訳してもらう。合理的に予習と復習とを心がけること。</p>				
◇ 成績評価の方法	授業時間中に示される能力と取り組み方による。				
◇ 教科書・参考書	Kosambi 批判版 (1948再版2000) を基礎とし、Kosambi 1959年版 (グラサーラガニ注付、再版2002) 等を参考にする。				
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	教授	後 藤 敏 文	2 学 期	月	4
◆ 講義題目	ブラーフマナ選「祭主の章」					
◆ 到達目標	文法事項（活用、派生法、シンタクス）を点検しつつ、古インドアーリヤ語の習得に努める。祭式を巡るインド思想史の展開にも留意し、基礎知識を学ぶ。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>最古の散文文献であるヤジュルヴェーダ・サンヒターから、祭主の章を取り上げる。前年度までのMS、KSに続き、TSを扱い、「ブラーフマナ」やシュラウタストラにおける祭主の役割への言及へと進む。古インドアーリヤ語散文文献に関する研究能力を養い、祭火を巡る思弁を中心に、祭式の意義付けの展開を追う。毎回出席者全員に順番に訳してもらおう。予習が十分できない場合にも出席してノートを取り、復習に時間を懸けること。</p>					
◇ 成績評価の方法	授業において示される能力と取り組み方を基準とする。					
◇ 教科書・参考書	コピーを用意する。Delbrück、Mayrhofer を座右に置くこと。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 I	2	准教授	吉 水 清 孝	1 学 期	火	1
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読					
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヒンドゥー教神話の一般的設定では、シヴァ神は女神パールヴァティーとの間に、息子としてスカンダ（韋駄天）をもうけることになっているが、初期ヒンドゥー教文献でのスカンダの出生はきわめて複雑である。今学期は、スカンダの出生を詳しく物語る現存最初の文献である『マハーバーラタ』第3巻の該当箇所を講読する。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。語彙の習得と講読範囲の文脈を振り返ることを兼ねて、学期末に抜粋部分の和訳試験を行う。</p>					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験（講読した範囲からの抜粋の和訳）[50%]・(○) 授業での貢献度 [50%]					
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	准教授	吉 水 清 孝	2 学期	火	1
◆ 講義題目	ヒンドゥー教神話文献講読					
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。既存の日本語訳がないものを取り上げるが、英訳を配布し批判的に検討する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヴィシュヌ神は様々な化身 (avatāra) の姿を取って、この世に現れる。今学期は『ヴィシュヌ・プラーナ』第3巻の中の、仏教の開祖ブッダとしての化身の章を読み、ヒンドゥー教が他宗教を包摂していくありかたについて理解を深めたい。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。語彙の習得と講読範囲の文脈を振り返ることを兼ねて、学期末に抜粋部分の和訳試験を行う。</p>					
◇ 成績評価の方法	(○) 筆記試験 (講読した範囲からの抜粋の和訳) [50%]・(○) 授業での貢献度 [50%]					
◇ 教科書・参考書	コピーを配布する。					
その他： 出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I	2	教授	桜 井 宗 信	1 学期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読					
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。</p>					
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ %]・( ) リポート [ %]・(○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]					
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊)、pp.1-37					
その他： 履修者は古典チベット語初級文法の既習者であることが望ましい。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 II	2	教授 桜井宗信	2学期	水	2
◆ 講義題目	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読				
◆ 到達目標	インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。				
◆ 授業内容・目的・方法	引き続きbSod nams rtse moの『タントラ概論』(rGyud sde spyiḥi rnam gshag)の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ]・( ) リポート [ % ]・(○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol.2 (東洋文庫刊)、pp.1-37				
その他：履修者は古典チベット語初級文法の既習者であることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 研 究 演 習 I	2	教授 桜井宗信	1学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読				
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。				
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるといいうインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>				
◇ 成績評価の方法	( ) 筆記試験 [ % ]・( ) リポート [ % ]・(○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]				
◇ 教科書・参考書	用いる基本資料は次の通り： ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y.Ejima、山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版(台北刊本は誤りを含み要注意)及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎積論』(真諦訳)。 ※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。				
その他：履修者は、サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であることが望ましい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
インド仏教史研究演習Ⅱ	2	教授	桜井宗信	2学期	木	1
◆ 講義題目	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読					
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読しVasubandhuの考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進めるというインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>					
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [ % ] ・ <input type="checkbox"/> リポート [ % ] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [70%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度）[30%]					
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梵文原典：ABHIDHARMAKOSĀBHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1 Y.Ejima、山喜房仏書林。</li> <li>・チベット語訳：デルゲ版（台北刊本は誤りを含み要注意）及び北京版を使用。</li> <li>・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎積論』（真谛訳）。</li> </ul> <p>※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>					
その他：履修者は、サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であることが望ましい。						